愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2022年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	総合演習Ⅰ		
担当者(Instructors)	丸岡 利則	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

この演習は、人間学のテーマについて自分の「言葉」で考え、それを「言葉」で組み立てることが目的である。そして自分で考えたことを整理しながら、人間学概論で学んだそれぞれのテーマの内容の真偽を確かめ、「糺すこと」がどういうことかを学ぶ。そして自分の考えを違う「意味」（視点・文脈）に組み換えることの実効性について、授業のなかの質疑応答などによって確認し、理解を深める。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	この演習の方法は、自分の言葉で考え、組み立て、話すことが中心である。この授業では、ICTのツールも活用し、学生が意見を出し合いながら、ディスカッションによって、他の学生の意見を確かめ、自己の考え方を相対化・客観化することを学ぶ。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	私とは何かについて明らかにする	【対面】考えるために、まず自分を客観化することを学ぶ	□
第2回	自分のことを知ること	【対面】自分のことを知るために、自己をテーマにした本を読む	□
第3回	西洋哲学・思想書を輪読	【対面】哲学・思想書で私とは誰かについて書かれた本を読む	□
第4回	「自己と他者」のテーマでディスカッション	【対面】自己、個人、自分、主体等をテーマにした哲学思想を議論する	□
第5回	考えることとは何かを明らかにする	【対面】自分と考えることとは何かを結びつけて明らかにする	□
第6回	考える方法を学ぶ	【対面】言葉を中心にしたテーマである哲学、文学、芸術作品から考える方法を学ぶ	□
第7回	フィールドワーク（情報マップを作る）	【対面】地域にある芸術・文化資源を中心に情報マップを作成	□
第8回	フィールドワーク（プランを作る）	【対面】地域にある芸術・文化資源と自分がどのように関われるのかを考える	□
第9回	フィールドワーク（実践）	【対面】実際にフィールドワーク活動をする（開館している図書館・博物館・美術館に限定する）	□
第10回	フィールドワーク（分析と報告）	【対面】フィールドワークの分析と報告を実施する	□
第11回	現実と理論の乖離を考える	【対面】現実の事態と理論化した概念とを比較検討する	□
第12回	現場での発見を言葉で表現し、法則を抽象化する	【対面】現実に起きている事態と法則とを言葉で再構成する	□
第13回	グループディスカッション	【対面】自分の考えと現場の事態と理論の三位一体を総合する	□
第14回	文章を書くことを学ぶ	【対面】哲学、文学、芸術、人文社会科学などの観点から文章化を学ぶ	□
第15回	ゼミ活動の報告とまとめ	【対面】ゼミ活動の総括とゼミ生の自己評価	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

１．課題図書を読むこと（1時間） ２．芸術作品にふれること（2時間） ３．図書館、美術館、博物館などに行くこと（1時間）

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回提出した課題レポートは、添削・採点の上返却する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019全学共通DP1	「人間学」の問題の核心を捉えて、多様な価値観を包括する「人間学」の概要を理解することができること。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019全学共通DP2	「人間学」のテーマについて、自分の言葉で考え、言葉にすることができることができること。
主体性	◆ 2019全学共通DP3	「人間学」の問題について、自己の問題として捉え直し、それを他者と協働することができること。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			10%	90%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

課題レポート提出（65%）、フィールドワーク発表（25%）

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	窪田暁子・高城和義編『福祉の人間学』開かれた自律をめざして/ （勁草書書）2004年	
2		
3		
4		
5		